

日本体育協会

総合型地域スポーツクラブ公式メールマガジン

〈連載〉東日本大震災被災地 応援情報

福島県内の支援活動



キーポイント

- 福島県双葉地区連絡協議会が自ら交流活動を実施
- 福島県双葉郡広野町のクラブが自らスポーツ大会を開催
- NGO 団体が福島県内にある総合型クラブの活動を支援

今回は、福島県内での総合型クラブなどによる復興に向けた活動をご紹介します。

1 「双葉地区ユニオン交流事業 in かわうち」の開催

福島県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会「うつくしま総合型スポーツクラブユニオン」は、県下8つの地区連絡協議会（ユニオン）に加盟する87クラブで組織されています。

「双葉地区ユニオン」では東日本大震災以来、初めての交流事業として平成25年7月7日に双葉郡で最初に帰村を果たした川内村でウォーキング大会を開催しました。

県内各地で避難生活を送っている双葉地区ユニオン加盟の6クラブから240名が参加し、復興が進む川内村を歩くことで、双葉郡の仲間に元気と勇気を与えることができた交流事業となりました。

事業費は全て1人300円の参加料で運営され、ゴール地点では「かわうちKOMERAクラブ」より、一人一人にとん汁と参加賞として川内高原農産物栽培工場で人工光と地下水を使って水耕栽培された野菜が手渡され、歩き終えた参加者からは「楽しかった」「また参加したい」との声が多く聞かれました。

この事業は、かわうちKOMERAクラブの頑張り、活発に意見を出し合い参加協力した双葉地区ユニオンの結束力が成功の要因です。

2 復興祈念イベント「MIKANカップ」の開催

震災と原発事故双方の多大な影響を受けた地域にある「広野みかんクラブ」（双葉郡広野町）では、広野町復興の足がかりにしたいという考えから、クラブの自主事業として復興祈念イベント第1回「MIKANカップ」フットサル大会を平成24年10月に開催しました。

平成25年は第2回「MIKANカップ」を、スポーツ振興くじ助成金も活用して「スポーツで広野町を元気に」を合言葉に年間を通じた複数種目で開催することとし、5月には「バレーボール大会」、6月には「フットサル大会」を広く町民を対象に実施しました。

5月のバレーボール大会（事業費193千円・助成金含む）では、双葉地区ユニオンの「ならばスポーツクラブ」（楢葉町）や「さくらスポーツクラブ」（富岡町）からの特別参加もあり、参加者は女子・混合合わせて12チーム120名で幅広いスポーツ交流ができました。これにより広野町に住みたいという方々の増加や町民の帰還を促し、元気なまちづくりにつながればと考えています。

6月のフットサル大会（事業費341千円・助成金含む）では、混成の部10チーム120名の参加がありました。

通常ではほとんど子どもの姿が見られない広野町ですが、家族で参加するチームや家族の応援に来る子どもたちも多数あり、「久しぶりに子どもたちの元気な姿を見ることができ嬉しかった」という高齢者も多数いました。

今後は8月に夏季野球大会、9月にバレーボール大会、10月にフットサル大会、11月には野球大会を計画しています。

広野みかんクラブの大和田クラブマネジャーは「この大会をきっかけに『広野町は楽しいな、良いところだな』と感じてもらい、地域住民には生きがいを、町外の皆さんには『住んでみたいな』と思っていただけるような事業に成長させたい。そのためには種目数のさらなる増加やオリジナルルールの開発などにより、だれもが気軽に参加でき地域にアピールできる魅力的な大会にしていきたい」と熱い想いを話してくれました。被災地のクラブが自らの事業で地域の復興に挑戦している事例なので、この想いが今後の具体的な成果につながることを期待したいと思います。

3 ふくしまコメラさんさんプロジェクトと絆キャンプの開催

原発事故後の福島県内では、屋外遊びが制限されたり、避難により家族と離れ離れになったりしている子どもたちがいます。公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(SCJ)は、福島県内の比較的線量が低く豊かな自然環境の中で安心して元気に外遊びができる場を提供することを目的として「ふくしまコメラさんさんプロジェクト(コメラPJ)」を企画しました。

コメラPJとは、県内の総合型クラブ(ひのきスポーツクラブとかつらおスポーツクラブ)が主管する「子どもたちのサマーキャンプ」の開催を後方支援しながら、さらにはキャンプ事業の実践に必要な指導者のスキル向上を目的とした事前セミナーを、県内の総合型クラブ関係者を対象に2日間開催する事業です。キャンプ現場で子どもの成長に有益な運動を提供し、子どもたちの主体的な参加を引き出すための実践的なプログラム形成や実践能力を涵養することが目的です。

セミナーには、県内総合型クラブや関係団体から10団体16名の参加があり、自然体験・野外活動や子どもと運動、総合型クラブを軸とした子どもへの運動機会提供の可能性などについて多数の専門分野の講師からレクチャーを受けました。

県内2カ所で開催される夏休みサマーキャンプの速やかな後方支援(参加料無料)に連動させるコメラPJは、特に被災地の子どもの安心で元気な外遊びの場を提供する斬新な取り組みとなっています。この事業は自然環境豊かな総合型クラブを活動の場とし、互いに協働する展開方法で、一過性のイベントではなく今後地域のクラブを拠点とした子どもたちの継続的な活動プログラムの定着に可能性を秘めた実践であり、SCJのミッション実現に効果的な取り組みと考えます。

(福島県クラブアドバイザー 板垣晶行)